

● 表彰事業報告

(2022年度) 第10回ロボット大賞表彰式を挙行

— 大臣賞（経済産業大臣賞、総務大臣賞、文部科学大臣賞、厚生労働大臣賞、農林水産大臣賞、国土交通大臣賞）、中小・ベンチャー企業賞（中小企業庁長官賞）、日本機械工業連合会会長賞、優秀賞、第10回記念特別賞を表彰 —



日本機械工業連合会は、経済産業省、総務省、文部科学省、厚生労働省、農林水産省、国土交通省との共催により、2022年10月19日(水)、東京ビッグサイト・西4ホールにおいて、第10回ロボット大賞表彰式を、受賞企業・団体関係者、審査委員など多数の出席を得て執り行った。

表彰式では、日本機械工業連合会 東原会長(株式会社日立製作所 取締役会長 代表執行役)の式辞(後述参照)の後、表彰状及びトロフィー・楯の贈呈に移り、経済産業大臣賞が中谷経済産業副大臣から授与され、以降、総務大臣賞が国光総務大臣政務官から、文部科学大臣賞が山本文部科学大臣政務官から、厚生労働大臣賞が本田厚生労働大臣政務官から、農林水産大臣賞が勝俣農林水産副大臣から、国土交通大臣賞が清水国土交通大臣政務官から各々授与された。中小・ベンチャー企業賞(中小企業庁長官賞)は中小企業庁 横島経営支援部長から授与され、日本機械工業連合会会長賞(2件)は東原会長から授与された。優秀賞(4件)及び第10回記念特別賞(2件)は川村ロボット大賞審査特別委員会委員長から授与された。

なお、受賞ロボット等については、[「第10回ロボット大賞」受賞一覧](#)を参照。

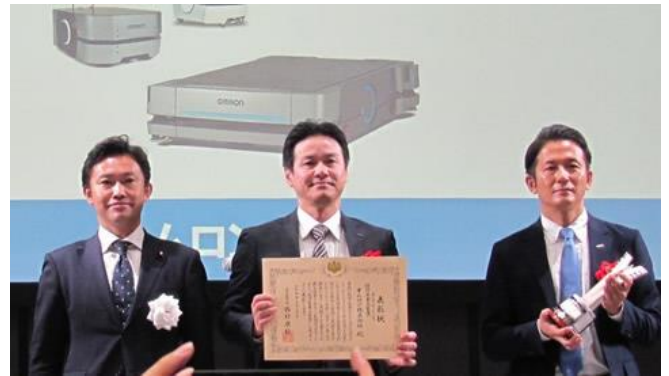
引き続き、オムロン株式会社 辻永執行役員常務(インダストリアルオートメーションビジネスカンパニー カンパニー社長)から受賞者を代表しての謝辞、川村ロボット大賞審査特別委員会委員長(立命館大学教授)から各受賞ロボット等に

についての総評があり、表彰式を終了した。

その後、全体記念写真撮影が行われた。



東原会長による式辞



経済産業大臣賞 オムロン(株)



日本機械工業連合会会長賞
パナソニックホールディングス(株)
Fujisawa SST マネジメント(株)



優秀賞(ビジネス・社会実装部門)
(株)ジェイテクト

(東原会長式辞)

ロボット大賞共催者幹事の一人として一言ご挨拶申し上げます。

先ずは、受賞された皆様、本日は、誠にありがとうございます。

平成27年2月に政府からロボット新戦略が発表され、その施策の中にロボット大賞の拡充が含まれました。これを受けて、日本機械工業連合会は、経済産業省をはじめ政府関係者にご指導を頂きながら、表彰がロボット活用の更なる拡大や産業振興に繋がる様に、表彰対象分野のひとつとして「ICT 利活用分野」を新たに加えるなどの拡充を図ってまいりました。

今回は100件を超えるご応募を頂き、審査委員の方々により13件の表彰案件を選定して頂きました。ご応募頂きました我が国のロボット技術の発展に日々取り組まれている皆様方、また審査員の方々、関係者の皆様のご尽力に改めて感謝申し上げます。

また、今回は第10回を記念して、13件の表彰案件の他に、第1回から第9回までの受賞案件の中から、特に大きな社会的インパクトを与え、普及・拡大につながったロボットについて、2件の記念特別賞を選定致しました。

なお、私は日本機械工業連合会の会長を務めると共に、ロボット革命・産業IoTイニシアティブ協議会、略してRRIの会長も拝命しております。RRIの活動は2015年の発足以来、世界一のロボット利活用社会の実現を目指し、国内の多種多様な会員企業との連携を強化すると同時に、国際シンポジウムを行うなど、欧米と協調しながら、その活動の発展に取り

組んでおります。私としては、今後、こうした RRI での活動成果を当ロボット大賞にも反映していくことで、更に本ロボット大賞を充実させて、日本のロボット産業の国際競争力強化や新たな価値創出に繋げていきたいと考えております。

最後に、本日受賞された皆様がこの受賞を契機に、日本のロボット産業の先導事例として自らもご発信頂くと共に、更なる研鑽を重ねて頂き、我が国のロボット産業を牽引頂くことを祈念して、私のご挨拶とさせていただきます。

〔デジタルトランスフォーメーション(DX)・技術部〕